

ふれあい

平成24年8月 第314号
大代地区コミュニティ推進協議会
(広 報 部)
事務局：大代地区公民館
TEL022-364-8442

掲 載 目 次

- 資源物の回収について・・・・・・・・・・・・1
- J X災害復旧見学会後の報告及び質疑応答・・・2
- 我が生活環境を知る・・・・・・・・・・・・3
- 除草作業に感謝・・・・・・・・・・・・・・・3
- 大代の歩み(四十九)・・・・・・・・・・・・4
- ふれあい俳句・・・・・・・・・・・・・・・4

大代地区の世帯数(平成24年6月30日現在)：東区339、中区310、西区281、北区118、南区576、合計1,624

資源物の回収について

大代東区長 三浦徳男

今回は、子ども育成会が長年(現在記録として平成十七年度より)資源物の回収をしてきた内容について紹介したいと思います。

育成会の会長と役員二人の方には、町内会の役員として役員会にも出席して貰っており、特に「夏祭り」や「餅つき大会」などの運営に携わって貰っています。また育成会は、市の委託を受けて石ヶ森一号公園と大代三号公園の清掃管理も行っています。子供達には、リサイクル出来る資源物の回収をして貰い、このことを通じて、長く続けることの大切さを知って貰おうと思っています。

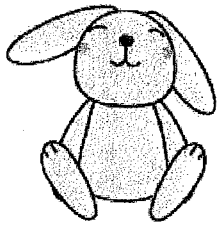
年度の仕事始めは、町内会総会で審議が終了した後、前年度の御礼として各戸にテッシュと今年度の回収予定日(第3日曜日)の日程表を班長さんから全戸に配って貰います。回収は、段ボール、新聞紙、雑誌類と広告用紙を行っています。

荷づくりした紙類は重く、子供達がトラックに積むには無理があるので、町内会の役員で都合のつく方に応援して貰っています。また市で資源物を回収する第2、第4水曜日に出す方もいるのでその資源物を回収し、保管庫に入れてくれる役員の方もおります。保管庫は資源物を保管する倉庫として、3年程前に町内会の役員をしている大工さんが作成し、集会所の奥に設置しています。保管庫の中は、このところ次の収集日までいっぱいになることが多いとなりました。

回収日当日は、先程のお世話をしている二人の方が、10ヶ所ある集積所に、回収を知らせる看板を立て、協力する方は近くの看板のところに資源物を出すこととなります。その後育成会の当番に当たっているお母さんや子供達が集まってきます。また、多く集まった家庭では直接車で集会所に運んでくれる方もいます。近くの所は子供達がリヤカーで少し離れている所はお母さん達が家用車で集会所に集めに来ます。その後は保管庫にある資源物を取り出し、選別して積みやすくします。整え終わつた頃、仙台から委託している業者のトラックが来ますので、皆で満杯になるまで積み込みし、シートで覆ったトラックを見送って九時三十分頃に終わります。

町内会では毎月、防火に関する事、町内会のお知らせや報告をする際など、全戸配付のチラシに資源の大切さや育成会の運営資金になっていることについて報告をしています。そのため資源物を第3日曜日まで保管しておいて、当日に出して貰うようお願いしております。お陰様で理解と協力が得られるようになり、多く集まるようになってきました。また、荷造りも大分良くなってきており、積みやすさ時間の短縮にもなっています。

現在は、共稼ぎの世帯が多くなり、生活環境の変化や子どもも育成会の存続について心配する声が増えてくる中で、町内会で育っている将来を担う子供達のために育成会を育成すべく手助けや助言をしながら、支援をして行きたいと考えているところです。



山積みの資源物、皆で協力しながら大型トラック満載に積み込んでいます。



子供達も大人達と一緒に頑張って一生懸命運んでいます。あと何回?.....

JX災害復旧見学会後の「報告及び質疑応答について」

大代防災対策協議会

会長 米澤まき子

「復興に命をかける」の著者宮城県知事 村井嘉浩氏は、この本に、復興にかける思い、取り組みのすべてを語っており、26ページから32ページに至っては、燃料不足が起きたことから超法規的措置でピンチを回避した内容の記述が乗っています。震災から1年4ヶ月が経った今、改めて読み返すと大地震の教訓として、後世に伝えていかなければならないと痛切に感じるものがありました。

7月11日は、有意義な時間を皆様と共有できたことに感謝申し上げます。見学会においては製油所の概要、震災関連の説明の後、質疑応答がありました。紙面上の都合により一部ではありませんが、質疑応答を中心にご紹介させていただきます。

質問 震災による火災の直接の原因について伺います。

回答 正直なところ特定はできませんでした。しかし、可能性として4つ挙げております。

① 油、LPGが漏れていたのは事実であり、勢いよく漏れると静電気が起きて、これによって着火したものではないか。

② まだ、余震があり、かなり揺れていた状態でした。その際に金属同士がぶつかり、その火花で着火したのではないか。

③ かなりのタンクローリーが津波で押し流

ていました。ローリー車ですのでバッテリーを積んでおり、水に浸かると急にクラッシュシオン、ウインカーが点くなど、電気系統のショートが起ることで、これが原因ではないか。

④ 震災直後、既に仙台港の方で火災が発生しており、そういった所から火種が流れてきた可能性も否定できない。

質問 今後、同じような規模の災害について防ぐ対策は

回答 今のところ万全な対策は採られていないのが実態です。しかし、現状については、消防当局に報告済みです。一方、延々と燃え続けるようにできないものかなど、火災を遮断するシステム等についての法規制ができないかについて、国で検討が進められています。県では、津波対策Ⅱ減災対策として、津波から設備を守る防潮堤を火災の発生した西地区には新たに設置し、東地区には、既存の防油堤を増強するなどの計画があります。

質問 2キロ圏内避難の根拠について

回答 最悪の事態として低温LPGタンクに火が移った場合を想定しました。高圧ガス保安法による重要施設までの距離を取らなければならぬ「保安距離」を算出する計算では、800mくらいになりましたが、最悪を想定して一番厳しい計算をすると2kmになりました。当時は時間がなかったため、そのような根拠で2km圏内の住民の方への避難指示を行政に依頼しました。

質問 夜間火災の場合の人員確保について

回答 24時間体制で、消防専門員は15名を確保しているほか、交替で勤務している従業員も災害

時における防災要員として確保しております。

質問 津波火災の場合の近隣会社との連携・協力体制について

回答 協同防災（電力、仙台ガス、全農、JFE条鋼を含む全11社）組織があり、常日頃から防災に関する話し合いが持たれています。

その他の質問事項

●地域の避難弱者の方の対応について

●避難命令と指示の違いについて

●LPGタンク6基引火した場合の想定について

●貞山堀道路補強について

限られた紙面上につき何卒ご了承ください。

予定告知

日時 8月11日（土） 10時～12時

場所 大代地区公民館 2階会議室

緩衝緑地公園・貞山運河の災害復旧についての説明会を予定しております。

我が生活環境を知る

大代東区 藤原 昭雄

7月11日にJX日鉱日石エネルギー株式会社様の工場内の見学会に参加させていただきました。公民館前よりバスで移動し、始めに会議室において3・11からその後の会社としての取り組みや現状についての説明がありました。説明終了後、質疑応

答があり、多くの質問、疑問に対し、丁寧にお答えしていただきました。予定の時間を大幅にオーバーしましたが、その後バスで工場内の被災状況、復興の状況、災害防止対策等の説明を受けながら、時にはバスを降り、現場や管理室における管理体制等の説明を受け、工場、会社として、今出来る最大限の安全対策について取り組んでいる様子を見る事が出来ました。しかし、プラントそのものは、所詮人工物です。自然の大地でさえ破壊していく地震津波等、自然の破壊力に限界はありません。そこでこの状況、状態での考えられる危険を予想、予測をしてみると、油漏れ、ガス漏れ、それに伴う火災、爆発等数々考えられます。

そこで、自分の命を守るために、私たちは今何をやればいいのか？住民の皆さんが住んでいる所でも微妙に違いがあると思います。したがって、それぞれの町内会等で対策を考えてみてください。町内会での防災訓練等は、単なる町内会の年間行事と思わずに参加して、自分の身を守る知識を学んでください。そうした場には、町内会役員だけでなく消防署や駐在さん塩釜警察署などの方がおり、専門知識や体験談など、参加することによって多くの知識を得ることが出来ます。こうした場を大いに利用し、守るすべを学んでください。いろいろ、数々理屈や考えがあるでしょうが、一番は危険を感じたり、危険情報を知ったら即逃げる。それぞれの避難所へ即行くことだと思います。

あなたの命、町内会でも隣の人でも守れません。守れるのはあなただけです。財産も大事ですが命あ

つてのものだねです。考えてみては如何でしょうか。

除草作業に感謝

多賀城東小学校校長 高野 行弘

はじめに昨年3月31日の大震災により甚大なる被害を受けられた皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。また、日頃より本校の教育活動へのご理解、ご協力に厚く感謝申し上げます。

さて、6月24日・日曜日に、大代公民館の高橋秀秋さんや小畑貞雄さん達が中心になって大代・笠神地区ボランティアの皆様や隊友会の皆様20名以上の参加をいただき、校舎内外の除草作業をしていただきました。お陰様で西門周辺から玄関までと、うぐいす学級周辺が見違えるほどすっきりきれいになりました。とても気持ち良い風景になり、感謝の気持ちでいっぱいです。

その折に感じたことが、3つありました。

第一に、皆さんが生き生きとして除草作業をされていたことです。

見ていてもとても気持ち良いものでした。

第二に、とった草や木の枝等をスコップで手際よく穴を掘って埋めていただきました。ほとんどごみに出すことなく助かりました。

第三に、活動しながら、学校の歴史や地域のこと等色々なお話を聞いたことも、とても楽しく有意義でした。

改めて、地域の皆様に支えられていることに感じ入ると同時に、深く御礼申し上げます。

なお、翌日は指導主事訪問日であり、きれいになっ

た花壇や校地で県や市からのお客様をお迎えすることができ感謝しております。



ご協力いただいた皆様方、作業する時間がもつたないということで、急いで撮影を済ませ、直ちに作業に取り掛かっていただきました。



立木の剪定、草の除去等なかなか手の届かないところも入念にやっていただき、とてもきれいになりました。

大代の歩み (四十九)

大代南区 渡邊 巖

時の政府は富国強兵を国是とした国力増強に邁進していたが、大正末期になって国内諸産業と水力発電の発達に伴う余剰電力の著しい増加をみた。それに着眼した県の実業界では、折から興った全国鉄道網整備の時流に乗って、本県の海岸線に沿う仙台・塩竈・石巻の三都市間を結び、且つその間に於ける名勝松島を始め野蒜海岸及び金華山に至る観光開発を主な事業目的とし、且つ当時、余力ある県内の発電・供給電力の消化対策として計画され、大正一一(一九二二)年九月『宮城電気鉄道株式会社』(以下、宮電)の設立を見たのである。

会社設立後、直ちに関係官庁に工事施工の許可を申請し、仙台―塩竈間の施工認可を得て、東北本線の仙台駅北口(地下)を路線の起点とし、当時新設された県道仙塩道路(現、国道45号線)に沿って高砂く多賀城く本塩竈駅(塩竈町内)に至る15・8 kmであった。

会社設立と同時に仙台―塩竈間の工事を開始したが、その後関東大震災のため設立発起人の会社が倒産、更に相次ぐ冷害凶作による農村の疲弊のため建設資金に行き詰まりを生じ、会社経営は困難であったが借款計画による某会社からの資金援助で何とか工事を継続した。

その工事も経路地区によって地質・地盤が必ずしも堅固とは云えない箇所が多く、海岸を経由する場所では波浪・浸水防除の工事を必要とした等、工事

進捗状況は決して順調ではなかったが、工事完了の区間を次々と東へ延ばして行つた。因みに仙台駅を起点とした工事進捗状況は次のとおり。

年号Ⅱ大正：T、昭和：S (西暦略)

T 15・04・14 本塩釜 S 02・04・18 松島海岸
S 03・04・10 陸前小野 S 03・11・22 石巻
まで約50 kmを単線区間ではあつたが、六年余の短期間で全線開通した。

続く

ふれあい俳句 (東日本大震災)

大代西区 藤田 遊子

避難所へ 急ぐ春泥 松葉杖
土台石 一つ残して 春津波
空腹へ 非常糧食 山笑ふ

お知らせ

華道サークルの募集と活動について

平成24年度華道サークルを8月17日第3金曜日より開始します。

場 所 大代地区公民館

活動日 第1、第3金曜日 10時〜12時
問い合わせ 伊藤 香峰 366-3412

公民館より

【8月7日(火) 9時から開館します】

皆様のご利用をお待ちしています!!